

平成27年度

単位 施策評価表 補表

施策	6502 全市的交流イベント開催の推進		
区分	妥当性	妥当	実施・主体・手段・意図ともに妥当である。
	コスト削減の余地	無	市政5周年記念式典事業費については、適正に予算計画・管理がなされており、コスト削減の余地はない。
	受益者負担	適正	スポーツ大会の参加費や駐車場料金の徴収など、受益者にも負担を求めている適正である。
	上位貢献度	有効	上位施策「多文化共生社会の成熟度」を高めるには、全市的イベントを開催する必要があるため、本施策の貢献度は高い。
	類似事業の有無	無	市政5周年記念式典事業費の類似事業は無い。
	成果向上の余地	有	各地域の観光イベント再編によるコストの削減、新市の一体感を醸成するための工夫など、成果向上の余地は残る。
内部評価	貢献度	上位施策の「多文化共生社会の成熟度」を高めるためには、全市的な観光イベントの開催や、広く市民が参加できる各種スポーツ大会等を開催する必要があるため、本単位施策への貢献度は高い。	
	達成状況	平成28年とちぎ秋まつりでは、市内全地域の小学生2,157人の参加希望があり、全市的な観光イベントの開催による一体感を醸成が図られつつある。 また、平成27年度で3回目を迎えた栃木市ウォーキング大会では、昨年も30km縦断コースを設定し、全市的なイベントとして定着しつつある。	
	課題	各地域の観光イベントは、歴史と伝統があり、各地域にとって愛着のあるものばかりである。各地域のご理解をいただいた上で、再編成する必要があり、単純に廃止・統合とするのは難しい。まずは、各観光イベントの実行委員会等の関係者と協議を重ね、慎重に調整を進める必要がある。	
	取組方針	引き続き、関係各課・関係団体と協議をおこない、各観光イベントの現状を把握した上で、再編が出来る観光イベントの選定をおこなう。その後、関係各課に再編成状況調査を行い、再編成された事業数の把握に努めるが、統合・廃止ができない事業であっても、新市の一体感を醸成に資するように、各地域間でイベントに参加してもらえるように、イベント内容やPR方法の見直しを併せて行う。	